

市民と市長の対話集会

第83回

タウンミーティング記録集



平成26年9月30日(火曜日)

会場 サンパルネ

時間 午後6時半～8時半

東村山市

○開催内容

平成26年9月30日（火）午後6時半、サンパルネにおきまして「タウンミーティング」を開催しました。今回は若者世代（18歳～30代）の方を対象に行い、42名の方にご参加いただき、ご意見をうかがいました。

●会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち38枚を回収しました。

・アンケート回答者の住所地

東村山市内	16人
市外	21人
未記入	1人
合計	38人

・性別

男性	20人
女性	18人
合計	38人

○開催情報

●対象 市民の方（在勤・在学の方含む）

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

（手話通訳・要約筆記が必要な方は、開催日の1週間前までに

FAXまたは電話またはEメールにてご連絡ください）

連絡先：東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 fax/(393)6846

Eメール/kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
平成26年12月13日（土）	秋水園ふれあいセンター	午前10時～正午
平成27年1月22日（木）	子育て総合支援センター 「ころころの森」	午前10時半～12時半

※1月のタウンミーティングは、就学前のお子さんをもつ保護者の方を対象に開催いたします。

タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

【市長あいさつ】

皆さん、こんばんは。東村山市長の渡部尚でございます。

今日は若者世代と私の対話集会ということで、大変お忙しい中、また、夜分お疲れのところ、大変多くの方にお集まりいただきまして、感謝いたしているところでございます。おいいただきまして、本当にありがとうございます。

担当所管より「若者世代とのタウンミーティングを企画しました」と言われた時、私は内心「果たしてどの程度集まるのかな」というのが不安でございました。実は、先月は皆さん方よりもっと若い世代の高校生とタウンミーティングを開催させていただいたのですが、市内の高校に通学しているということで市民の方もいらっしゃれば市外の方もいらっしゃるという状況で、話としては非常に盛り上がったので良かったなと思っております。今日はこんなに大勢の方に来ていただいて、ちょっとびっくりしています。本当にありがとうございます。

また、今日、司会を引き受けていただきましたKさんは私から見るとまだまだ青年・若者ということですが、今日お集まりの皆さんからすると兄貴分というかお兄さんという感じかなというふうに思いますが、今日は本当にありがとうございます。

東村山市では、毎月、市民の皆さんと私の対話集会というのを開催しています。ただ、残念ながらお集まりいただく市民の方というのは大体50代後半から60代・70代の方が主で、これから次代を担っていただくような20代あるいは30代ぐらいの方の参加というのが本当に少ないんですね。そういうことで次の時代を担っていただく若い人たちの声を聞かせていただいて、できるだけそうした声を市政に反映していこう、広い意味でいえば政治に反映していこう、あるいはまちづくりに反映していこうということで今年は高校生とタウンミーティングをやってみたり、まだ小さいお子さんをお育て中の若いお母さん方とタウンミーティングをやらせていただいたり、あるいは先日、18歳～40歳未満の方を対象に「ムラカイ」という若者世代の方にお集まりいただいて、若い視点から「これから東村山市にどんなことが必要か」あるいは「若者としてはどういうまちだったら住みたくなるのか」ということを中心にワークショップを開催させていただいたりしています。今日もぜひ皆さんからそういった視点で「自分はこんなまちだったら住んでみたいな」「住み続けてみたいな」ということで後ほどグループワークをしていただくと良いのではないかなというふうに思っています。

今日は、今までいろいろなことお手伝いしていただいたYさんという女性にもご参加いただいています。「今日は少しでも良いから市長のビジョンを語って欲しい」というオーダーをいただいているので、少しこれまでの自分の歩みと、私はこんな思いで東村山市を良くしたいと思ってがんばっているんだ、ということをお話しさせていただきたいなと思います。

私は西暦1961年、昭和36年生まれで、現在53歳です。子どもが2人いて、上が24歳、下が21歳ということで、恐らく今日来ていらっしゃる皆さんのお父さん・お母さんと同世代ぐらいになるのではないかなと思います。私が生まれた時、親は中野に住んでいたそうなのですが、私が生ま

れたのでそれまで住んでいたアパートが手狭になって、私がまだ1歳になっていない頃に、今、私が住んでいる東村山市の萩山町の建売を買って引っ越してきました。それから今はもう無くなってしまったのですが地元のさゆり幼稚園という幼稚園を卒園して、そのあと地元の萩山小学校、第三中学校、都立国分寺高校、水戸にあります茨城大学というところに通って、就職して実家に戻ってきたというような経歴を持っています。

私が子どもの頃は東村山全体が非常に緑豊かで、今でも多いのですがもっともっと多くて、私の家の隣にかなり広い林というか森が広がっていて、親戚や友達が来ると「別荘地みたいですね」なんて言っていたのを子ども心に覚えています。ですから私は子どもの時はそういう野原を駆け巡って遊ぶというようなことをして虫を取ったり、池にザリガニを取りに行ったり、小さい時から小学校低学年ぐらいまでは本当に自然を相手に伸び伸びと楽しい生活を送らせていただいていたと思います。小学校の中学年ぐらいからだんだん開発のスピードが速くなって、家の近所にあった森や林も切り開かれて宅造されてどんどん住宅地になっていくという時代を経験して、私としては身近な緑が豊富にあるというのが東村山の原風景として残ってしまっていて、どんどん開発されてきた子ども時代の周りの変貌ぶりに何となく寂しい思いをした記憶もあります。ただ、一方で当時、周辺の都市には大きなお店がなかった時代に久米川駅の南口に広場ができてスーパーができたり、東村山駅の周辺にもスーパーができたりして、今は周辺のまちと比べると「何もないじゃないか」とよく高校生や中学生に言われるのですが、小学校高学年から中学校ぐらいにかけて急激に駅前も開発が進みました。また、当時この辺で5階建ての市役所というのはなくて、急に大きな市役所ができたり、あるいは中央公民館や中央図書館といったものがどんどんできあがるということで、まちがものすごく変貌する時期に私はちょうど思春期を過ごさせていただきました。通っていた学校も小学校の時は木造の校舎だったのですが、中学の時にちょうど三が建替えて今の鉄筋コンクリートの建物になる時で、自分の生活している空間、あるいは学校がすごく大きく変貌する、都市化するというか近代化するという感じがありました。そんなことで中学生ぐらいの時から「まち」とか「まちづくり」ということに自分なりに関心を持ち始めたのかな、とっておもっていて、当時、市長になるとは思っていなかったのですが、中学時代の友達から「お前は中学校の時から市長になるって言ってたよな」と言われて「そんなこと言ってたかな」と思ったのですけれども、小さい時から中学・高校生ぐらいの間に東村山が大きく変わったということが自分たちの住むまちについて関心を持つようになった大きな原点ではないかというふうに思っています。

そういうことを踏まえて、東村山というのは新宿や高田馬場などの山手線から電車で大体30分ぐらいのところ、比較的どのエリアに住んでいても都心部まで1時間前後ぐらいで行けて、都心との距離感という意味では割と便利なところ。一方で、身近な緑、特に北西部にはトトロの森と言われる八国山や北山公園、狭山公園、それから中央公園、青葉町には多磨全生園の緑があったり、それから私の住んでいる萩山町には公園ではありませんが小平霊園がありまして、面積の約1/2は東村山なんですね。そういう感じでまだ市内各所にかなりまとまった緑があって、緑・自然というものと都市の利便性というのが調和しているまちではないか、というのが多くの市民の皆さんがおっしゃっているところです。もちろん課題もいっぱいあるのですが、人が住むにはこうした緑と都市というものの調和がうまく取れていないとまずいので、やはり残すべき緑や自然、それから便利で豊かな生活を享受できる都市の空間みたいなものがうまくマッチングする調和の取れたまちというのが1つの理想ではないかなというふうに思っています。東村山はそういうことをずっと大事にしながらまちづくりを進めてきていますので、これからも東村山としては外せない大事なことではないかと思っています。

それから東村山のもう1つの特徴としては、東村山市は古くから多磨全生園だとか、トトロの森のモデルと言われる八国山の麓には2つの結核病院があって、新山手病院というのはかつて保生園病院と言われていたのですが、そこがサツキとメイのお母さんが入院していた病院のモデルと言われていて、近隣市も含めてこの辺はそういう東京のど真ん中にはなかなか置いておけなかったような医療機関や病院というものが集積しています。いろいろな経過があったにしても、東村山市には結核とハンセン病の病院、清瀬市には結核、それから小平市は精神病のナショナルセンターといった人が嫌がるようなものを明治の末ぐらいから昭和の初めにかけて受け入れてきたということがまちの特性の1つとしてあるのではないかなと思います。それは病を得たような弱い立場の人も受け入れるというある種、やさしさがある住民の気風というのが東村山の誇れる1つではないかなと考えています。実はハンセン病の療養所というのは全国に13ヵ所あるのですが、大体は山奥や離島などの周りに人が住んでいないようなところに置かれていまして、東京の付近でどこかに造らなければならないとなった時に、最初、今の目黒区あたりにハンセン病の療養所があったのですが、それを拡張する場合に当時は周辺の人からのハンセン病に対する偏見や差別が強く「ああいう病気が近くにあると自分たちにも移るのではないか」とか、風評被害のようなもので「ああいう病院の近くだと物が売れなくなる」とか「地価が下がる」とかいろいろなことを言われてだんだん郊外に移転してきて、最終的には東村山で受け入れるということになったんですね。他のところでは嫌がられるようなものをそういうかたちで受け入れて、多磨全生園や他の結核の方々と市民が100年一緒に歩んできた、そういう意味でいうと東村山というはある種、弱い立場の人に対するやさしさを持っている、ということが住民の気風としてずっと受け継がれてきているのではないかと私は思っています。人に対する思いやりややさしい気持ちというものもこれから東村山市が引き継いでいかなければならない大事なことではないかなと思っています。

それともう1つ、東村山が皆さんに自慢できるのは、あまりメジャーではないのですけれども美味しい食べ物がいっぱいあって、今の季節だととっても美味しい梨やぶどうが取れます。それから地域の食としてはうどんですとか最近では黒焼きそばがありまして、中小規模ですけれどもいろいろ食に関わる企業も結構あって住民の皆さんの雇用を支えたりということもあって、そういうところを切り口にしながらこれから東村山の活性化を考えられるのではないかと思っています。

東村山市は今年、市制施行50周年で、私や市役所も「東村山は何なのか」というローカルアイデンティティをいろいろ考えていて、やはり「人」と「緑」ということがあるのではないかと。そこに「食」というものを加えて考えていくと東村山のこれからのあり方というものが少し見えてくる気がしています。人を大切にしたり人と人のつながり、それから人と緑の調和ということを考えて、皆が美味しいものを食べると笑顔になるように、今、東村山では『人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山』ということを将来都市像に掲げてまちづくりをさせていただいています。

中学生や高校生のタウンミーティングをやると「東村山には大きなショッピングモールがない」という方面の話にどうしても流れがちで、確かに大きなショッピングモールがあって地元でいろいろなものが買い物できるというまちのほうが若い方には魅力的なのかもしれないけれども、東村山には探っていくといろいろな魅力があったり、歴史もあったりするので、ぜひ若い方に「それぞれの東村山の宝って何かな」ということを見つけていただいて、それをまた共有して地域の誇りに育てられると「東村山に住んでいて良かったな」とか「ああいうまちに住んでみたいな」と思っていただけではないか、と考えているところでございます。

政治に携わる人間はあまり普段こういう話はしないのですけれども、今日は若い方々だったので自

分の生い立ちを含めてなんでこういう仕事をしているのか、東村山はどういうことを歴史的に大切にしてきたのか、ということを中心に私なりの東村山に対してのビジョンというより愛を話させていただきました。愛というと格好つけたような言い方なのですが、私がいつも職員に言うのは「市役所職員はやはり最後は地元愛だ」と。「このまちが好きで、このまちを愛して、このまちに住んでいる人を愛さない限り市役所の職員として良い仕事はできない」と常々言っているのですけれども、私はそういう意味では本当にこのまちで育って良かった、このまちに育てられて良かったなということで、何か少しでも恩返しをして良いところを次の世代の皆さんに受け継いでいただけるようにがんばっていきたくと思っています。

ちょっと長くなりましたが、今日は限られた時間ですけれども「こんなことを考えてみたらどうか」とか「こんなことをしてみたらもっと面白いまちになるんじゃないか」というような提案をどんどんいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

【グループワークのご意見 及び 市長と意見交換（要旨）】

司会のKさんより東村山市についてスライドで紹介していただいたあと、7つの班に分かれ、自分たちが生まれ育った過去を振り返って、それが現在どうなっているか、そして未来へ残したい場所、あるいは新たにつくって欲しい場所についてグループワークを行い、若い世代の人が住んでみたいまちとして市長に発表して意見交換を行いました。

◆ 1班

◎ 発表 ◎

私たちの班では、最初、遊び場だとか昔どんなことで遊んだのかというのを出していろいろと話し合っていく中で、昔は近所のおじさんにすごく叱られたり、地域の人との関わりがあったけれども、今は子どもに突然話しかけたら不審者だと思われたり、大人も子どもに話しかけるのをためらってしまう。自分が今、暮らしているまちを想像しても、どんな子どもが住んでいるのか全然知らなかったり、大人と子どもの世代を超えた関わりが無くなってきているなという意見がすごくあがった。それに対して世代を超えた関係性を持てるまちだったらいいなということで、高齢者とか大人とか子どもが世代を超えて集まれる場があったらいいなとか、不審者だと思われないようにするには顔見知りだったら良いわけで、大人と子どもが顔見知りになれるよう一緒に遊べるイベントを市公認で企画して「不審者いませんよ」とやってもらうとか。

あともう1つ出たのは、東村山は地域のお祭りとかイベントはいっぱいあると思うんだけど、あまり知らなかったりどこでやっているのか情報が得にくいということなので、そういう地域のお祭りなどのイベント情報を一気に見られるような大きなウェブサイトがあればいいと思う。



◆ 2班

◎ 発表 ◎

私たちの班で出た意見は、まず遊べる環境というところに目線を置いた。近年、校庭でも野球とかサッカーがなかなかできない状況の中で、行き過ぎた規制があるのではないかと考えている。そのため、自由に遊んでも良い場所がつけられるとすごく良いのではないかなと思う。



それと今の子どもたちは遊び方を知っているのか。私も小さい頃ザリガ二釣りとかをやったことがなくてやり方がわからない。実際そういう人も少なからずいると思う。特に今の子どもたちはそういう人が多いと思うので、遊び方を教える機会を設ける必要もあると思う。

それと残したいもの、これからつくりたいものとして、近所の公園で気軽に行ける場所。そして高齢者の方とかと世代間交流ができる、大人と子どもを引き込めるような新たな場所ができれば良いのではないかな、という意見が出た。

◆ 3班

◎ 発表 ◎

私たち3班では残したいものとこれからつくって欲しいものという大きな分類に分けたが、どちらかというとはりつくって欲しいもののほうが多くなってしまった。



残したいものとしては駄菓子屋。今はお菓子のディスカウントショップがいろいろなところにあるが、それよりも皆がワイワイできるような1つ10円単位の駄菓子屋みたいなものがあればこれからも残して欲しい。子ども同士のコミュニティという部分。

つくって欲しいものとしては、地域間交流だったり、子どもたちが遊びを考えるスペースが欲しい。地域の世代間交流で農業体験にもっと力を入れていったら良いかなと思っている。畑が多いイメージなので、小学生の子どもたちに根や種を植えるところから収穫までを一貫してやってもらうような動きをもっと強めても良いのではないかなと思っている。

そしてもう1つは遊び場。昔の遊び教室ということで高齢の方が子どもたちに昔遊びを教えてくれるようなことを公民館でやっても良いのではないかなと思っている。あと、秘密基地が作れるような「ひがっしーの森」みたいなものをつくっても良いのではないかなと思った。

最後に、つくってほしいもののもう1つとして、校庭を土半分、芝生半分にしてもらえると良いんじゃないかなと思った。お金がかかると思うけれども、やっている市もあると思うので、東村山市もできればやって欲しい。

◆ 4班

◎ 発表 ◎

小さい時に多摩湖町に住んでいた。皆で話し合っって思い出がたくさん出てきた。

大きく公園のパートと児童館だったり教育のパート、あとはお祭りなどのイベントのパート、あとは川や山だったり自然のパートに分かれた。特に思い出が深かった場所の1つとしては菖蒲苑（北山公園）。私たちのメンバーが北山小だったというのが大きいかもしれませんが、やはり菖蒲苑は東村山市の中で1つのメジャーなスポットとして残していただきたい。あとはトトロの森ともいわれる八国山。あとは八坂神社や金山神社などいろいろなお祭りがあるので、それは良い思い出に残っている。

今後、残しておきたい場所、市長へのメッセージとしては空堀川をさらに綺麗にして欲しい。あと東村山駅の近くにあったボウリング場や久米川駅の近くのゲームセンターがなくなったので、そういった面も力を入れて欲しいというもあるが、一番強いメッセージとしては自由に遊べる場所。何かあるでもないが今はキャッチボールするだけでもクレームが入ったりするので、私たちが昔していたようにただ遊べる空き地のような場所を残していただけたらと思う。



◆ 5班

◎ 発表 ◎

遊び場として大好きなところが、桜並木や八国山や公園、自転車道だったり多摩湖だったり、そういった自然を残して欲しいのと、遊びとして坂が多かったり、お祭りは他市に比べて多い。芝滑りしたよなんて話が出たり、多摩湖の裏が暗くてそこで肝試しをしたなんて話も出た。

各地、公園（緑）は多いが夜の照明が少ないという公園もあって照明を増やせば良いのか、という話も出た。

あと、お子さんをお持ちの方もいて、一人で遊びにいかせるのが不安である。一人で遊びに行くのだったら公園に頼れる場所や人目を置こうということで、カフェを出したり、信用できる大人だつたりを置いて逆にそこに行くことで公園に人が集まってより目が届くのではないかという話が出た。

あとは公園の数を増やして欲しい。例えば天王森公園は大きな道の近くにあつてちょっと危ないという声もあつた。そこも夜、暗くて危ないのもうちょっと照明が欲しい。そこも休憩場所として屋根のある椅子を置くことで大人が溜まれる場所になつて世代間の交流になるという話も出た。

あと水がおいしい。土臭い・泥臭いというのも素晴らしいという意見だつた。



◆ 6班

◎ 発表 ◎

私たちの班が思ったことは、東村山は交通の便が良いのに東京都民にも知られていないということで、自然を生かしつつ観光地にすることが大事かなと思った。例えばトトロの森のモデルと言われている八国山にトトロの銅像を置いたりしてジブリのモデルの地としてPRする。あと、ひがっしーにもっとがんばってもらって東村山をもっとPRして欲しいなと思った。



あと狭山公園という素晴らしい公園があるそうだが、駐車場が有料らしいので無料化することによって車でアクセスも良くなりたくさんの人に来てもらえると思う。

あとは東村山市民にもあまり知られてないらしいが、「志村けんの木」というものがあるということなので、それもPRすれば観光地になるのかなと思った。

東村山は子どもの頃は自然で遊べるが大人になってから遊べるところが少ないと思ったので、観光地化したり多摩地区にない映画館をつくったりすることが大事かなと思った。

◆ 7班

◎ 発表 ◎

私たちの班では公園や川とか自然のあるところとか小学校の校庭とかで遊んだねという話があって、その中で今の子どもたちって一体何を遊んでいるんだろうかという話になり、私たちは全然想像がつかなかった。まちを歩いて公園とか遊ぶところは残っているが、危険防止のためか遊具と



かが減っていて、子どもの遊びの自由度というのがどんどん小さくなっているのかなというふうに感じた。とは言っても時代の流れでニーズとかも変わっていくと思うので、昔に当てはめて昔に戻せば良いというのは安易な考え方だしナンセンスかなとは思いますが、それを市民に求めるよりは行政が機会をつくって市民同士の関わり合うイベントだったり、公園の遊具が危険だと言うなら学校とかをどんどん開放して大人とか教師とかが見てくれる環境があれば良いんじゃないかなと思った。

あと川とかも確かに危険だけれども、セーブして子どもたちが遊べるスペースをちゃんとつくってあげれば良いのかなというふうに思った。

◎ 市長回答 ◎

1時間弱でしたけどグループワークしていただいて発表いただきまして、ありがとうございます。ご苦労さまでした。

最初に感想なんですけど、皆さんみたいな若い人たちが「今の子どもたちがどうやって遊んでいるのかわからない」というのがびっくりでした。私みたいな世代になってしまうと到底わからないのだけれど、皆さんたちが今の小学生ぐらいの子どもたちと世代のギャップを感じているというのは私ぐらいの年代になると逆に面白いなと思いました。

遊び場ということを通して自分たちが子どもの時にどんなところでどんな遊びをしたか、結構どこ

のグループも話が盛り上がり、今日のグループワークは面白いなと思いました。自分が子どもの時の体験で、どちらかというと楽しい思い出が多い「遊び」というテーマについて話をすると初めて会った人同士でもいろいろな話ができるというのは大きな発見だなというふうに思います。

今日いただいたご意見で、皆さんが身近な公園だとか森や川だとか、あるいは施設として児童館等で遊ばれたということは私が子どもの頃とそんなには変わってないのかなと。私が子どもの頃は児童館とかはほとんどありませんでしたけれども、年代を超えて遊ぶところというのはそういうところで、かつては子どもたちが群れて遊んで社会性を身につけたり、いろいろなことを学んでいたような気がしています。そういう意味では大勢で群れ遊びができる環境をつくっていくというのはすごく大切なことだなと改めて思いました。

実は今年、市制施行50周年ということで、この間、子ども議会をやったり高校生とのタウンミーティングをやった時に一番大きく出たご意見として、何人かの方にも発表いただきましたけれども、「自由に遊べる場がない」というのは今の子どもたちにとっても切実な話です。確かに規制が多くてボール遊びもできないような公園が多くて、今、市としてもある程度スペースがある公園については安全管理をしながら時間とか日にちを決めてボール遊びができるような工夫ができないか検討しています。すぐに公園の面積を広げたり、公園を増やしたりというのはなかなかできないので、そういうことをやっていって、これも何人かの方に言っていただきましたけれども、そこに世代を超えて人が集う空間をいかにつくるか、ということがすごく大事だなと。そういうことについては若い人たちと私たちも認識を共有しているということがよくわかって面白かったなと思います。

さすがに今の若い人だと思ったのは、ザリガニ釣りをしたことがないということで、遊びをどのように伝承していくかということも大切なことだなと思いますので、その辺もこれから少し考えていきたいなと思っております。

今日は本当にいろいろな示唆に富んだご意見をいただきまして、ありがとうございました。



【会場でのご意見】

自由意見 及び 市長と意見交換（要旨）

◆ Dengue 熱対策について

（恩多町 Kさん）

グループワークで公園の整備についての意見が多かったが、今、蚊による Dengue 熱が流行っている。来年度に向けて公衆衛生費というようなものを予算化したほうが良いのではないかと。先日、中央公園で総合震災訓練があった時に虫除けスプレーを設置していたが、私も公園でボランティア活動をしてしているので、予算配分を検討してもらえたら子どもたちも安心して遊べるのではないかと。思う。

◎ 市長回答 ◎

Dengue 熱については、当初は代々木公園で蚊に刺されて発症したということだったのですが、その後、いくつか都内の公園とか千葉県でも刺された方が発症されたりということで、市としても内部的に会議を開いて市民の皆さんに注意喚起を強化していくということと、市が主催する屋外の行事については虫除けスプレーを用意して市民の皆さんに使っていただくということで意見集約させていただいております。今、お話のあった富士見町の中央公園で行った総合震災訓練の時には、ご用意して使っていただきましたが、なかなか日常、遊びにこられるお子さんの分までご用意するところまではできていません。これから涼しくなると一旦は終息すると思えますけれども、東京の場合は1年中蚊が生息し得る環境があるので、もしかすると根絶できないで来年度以降また流行する可能性はあるのかなと思います。基本的には虫除けスプレーをご用意するぐらいしかなかなか手がないのですが、東京都の保健所等と連携しながら市町村レベルでどんな対策が取れるのか検討して、ちょっと研究させていただいて東村山の公園で蚊に刺されて Dengue 熱になったというようなことが極力ないようにしていきたいと思っています。

◎ 健康課・みどりと公園課・学務課より ◎

今夏、都心部の公園を中心に感染が拡大した Dengue 熱の問題に関しては、厚生労働省や東京都（保健所）からの情報をもとに、市民の方への情報提供等市として行うべき対応を図ってまいりました。

様々な感染経路が考えられるなか、予防の第1次対策としては個人として蚊に刺されることを未然に防ぐことが最重要であり、長そで長ズボンの着用や虫除け剤などの使用を促すため、市報や市ホームページなどで注意喚起を行うとともに、学校からの周知やイベント等の開催時の参加者へのお知らせなどを行いました。また、個人として蚊の発生を防止するための対策についても都の情報に基づき周知いたしました。

幸いにも、当市を含め近隣市での感染や罹患者の発生がなかったこともあり、それ以上の対策は行わずに済みました。周知や対策については「どのタイミングで、どこまで行うべきか」との課題もございりますが、万一の時には、保健所との連携体制の中で庁内の関係所管が連携を図りながら、速やかに対応していくこととしています。

◆東村山のまちづくりについて

(諏訪町 Kさん)

小さいころからずっと東村山に住んできて、親からは「東村山は本当に金がない」と言われてきた。雀の涙ほども他に使える予算がないと。数年前までは市の貯金をどんどん切り崩しながらやってきた中で、渡部市長が就任してからは結構行財政改革が進んでいるんじゃないかなとは思っている。切るものは切る覚悟でどんどん進めて欲しい。それで浮いたお金は全部、若者に回して欲しい。私が大人になってもこれは言い続けたい。少子高齢化で有権者のためとって人口の多い高齢者ばかりにお金を注ぎ込んでもデフレと一緒にどんどん縮小するだけなので、未来に投資することをやって欲しい。あと東村山は市民との協働というのを謳っているんで、それをどんどん進めて財政を健全化させるために節約の意味もあると思うが、協働を進めるという覚悟をお伺いしたい。

◎ 市長回答 ◎

冒頭お話しさせていただいたように、残念ながら東村山市は市内に大きな企業などがなく代わりに病院だとか小平霊園などの税金が取れない国や東京都の施設を数多く受け入れてきたので、そこが財政が脆弱な理由の1つになっています。やはり財政力のあるまちというのは大きな企業や大きな工場があって、そこが稼ぎ頭になって自治体に多額の税を払う。そういうまちは財政的に豊かなので施設が充実していたり公園も充実しているところがあるかなというふうに思っています。

私が市長に就任した平成19年というのは財政的に一番ピンチな時で、そのためにこれまでの7年間のうち一番力を注いできたのは改革をして何とか財政を立て直していくことに尽力してきたつもりです。市の借金は平成18年度末で714億円あったのですが、25年度の決算では666億円で、48億円減らすことができました。市の貯金についていうと平成18年度末は全部で33億円だったのですが、昨年度の決算では85億円ということで、52億円増やすことができました。削った借金48億円と増やした貯金52億円を合わせると、この7年間で約100億円の財政基盤の改善を行うことができましたかなと思っています。

市としてはお金を貯めるのが目的で仕事をしているのではないのですけれども、今後も中長期的な視点に立って極力、借金を減らして将来世代の皆さんにつけ回しをしないようにする。それから今、やらなければいけないことはいっぱいあるのですけれども、将来に備えてきちんと貯金しておく。それを基本としながらこれからも運営していきたいと思っています。

少子高齢化が進行する中で、人口減少ということもあって、持続可能な自治体経営、まちづくりということでは、子どもたちや若い世代の皆さんに魅力あるまちをつくっていかないと先細ってしまうことはおっしゃられた通りです。皆さんはまだご結婚してお子さんはいらっしゃるかもしれませんが、今、市が力をいれているのは子育て世代の皆さんに魅力あるまちをつくらうと。外に1回出たけれども子どもを育てるんだったら東村山に帰って育てたいなど。そうならば自然があるだけでなく、保育園を増やして待機児を減らすとか、幼稚園に通う場合にもお金がかかるので支援するというようなことで「子育てするなら東村山」というパッケージで子育て支援についてはかなり強化しています。

それとその前の段階で、小学生・中学生の子どもたちの学習環境を良くしていこうということで、まずは大震災等があって学校が倒壊してしまっただけでは話にならないので、この間、小中学校の耐震補強工事に一番力を入れて進めてきて平成24年度に全て完了しました。それと東京都で新たな補助制度ができたのを活用して、市内の小中学校の普通教室には全て空調が入っています。7月半ば～9月初

めぐらひは教室によっては室温が40℃近くになってしまうような状況があつて、勉強どころではなくて、学校で熱中症になってしまったというようなことではしゃれにならないので、改善しようということで子どもたちの学習環境を整えるために空調をいれたり、学校によっては今、外壁やトイレの改修をやっています。それとともに何とか子どもたちの学習意欲を高めたり基礎学力の向上を図っていかうということ、各学校の先生方や教育委員会も協力して、子どもたちがどこでつまずいてしまふのかということ洗い出して東村山版のドリルを開発して、つまづきやすいところを短時間で繰り返し学習するというようなことをしています。おっしゃられるようにできるだけ次代を担う子どもたちあるいは皆さん方、若い世代の人たちが希望を持てるように、そして「このまちで育つて良かった」とか、一旦は離れても「自分が子どもを持った時にはこのまちに帰つてきたい」と思われるようなまちづくりをしないと、人口減少時代の中で自治体も半数以上は消滅してしまうと前の総務大臣の増田さんがおっしゃつてましたけど、そういうことをやつていかなければならないのではないかと思っています。そういう意味で、今、東村山市もできるだけ若い世代の人や子どもたちの声を直接聞かうということで取組ませていただいているところです。

◆東村山のまちづくりについて（その2）

（恩多町 Wさん）

市長が今「子育て世代に対する魅力あるまちづくり」とおっしゃつたが、子ども議会とか中高生タウンミーティングでは「大きなショッピングモールが子どもたちには魅力だ」とおっしゃつて、それとは別に「自然と調和したまちをつくる」ということで矛盾している気がした。どのような調和のさせ方とか、子どもたちに対してどういう魅力を持ったまち、どういう魅力を押し出していきたいのかということをお伺ひしたい。

◎ 市長回答 ◎

私の言い方が悪かつたのですが、子ども議会やタウンミーティングでの子どもたちの視点としては「東村山に大きなショッピングモールがあつたら嬉しいです」というご意見があつて、子どもたちにとってはそれが「魅力の1つになっている可能性はある」ということで申し上げたので、私は市内に大きなショッピングモールを造る気は毛頭ないし、子ども議会の時にも「今から東村山にそんなに大きなショッピングモールを造れるような場所がないですよ」ということを言いました。

ただ、東村山はこれから西武線が高架になる事業が進められていまして、基本的には東京都と西武鉄道の事業ですけれどもそこに東村山市も絡んでいきます。その中で、1つは高架下の空間が生まれるので、駅の近くは賑わいをつくれるようなまちづくりを考えていく必要があるのではないかと考えています。ただ、高架下に巨大なショッピングモールのようなものが造れるわけではないので、郊外型の大型ショッピングモールではないけど何か人が集えるような商業系の施設などをどう発想していくか。それは西武鉄道とも知恵を出し合つて考えていく必要があるのではないかなと思います。

駅の近くには人が集まれるようなお店や娯楽施設のようなものも含めて考えていく必要があると思いますが、いろいろな世代の人に魅力あるまちをつくるには、駅から少し離れた今ある緑はきちんと残して、開発すべきところは開発するというバランスを取ることが大事ではないかなと考えています。

そういう意味ではゾーニングというかエリアごとに分けて開発する。例えば近隣の駅前に比べて、「東村山はお店が少ない」とか「大人が遊んだり集つたりする場が少ない」という意見もあるので、

中心部ではそういうものの形成もしていかなければならないけれども、周辺の緑などの自然環境は大事にして魅力を高めて、他所から「八国山に行ってみようか」と思われるような取組みを考えていくことが大事ではないかなと考えています。

◎ 企画政策課より ◎

高架下の土地利用について、鉄道事業者による設置が考えられる施設としては、駐車場、駐輪場のほか、民間事業者による設置が可能なものとして、保育園等の子育て関連施設、イベントスペース・会議室、スポーツ施設等があります。また、現行の条例により設置されている公民館や公益施設等を新たに高架下へ設置また移転する場合も考えられますが、多目的用途の複合施設として、商業店舗や娯楽施設を併設できる可能性も含め、東京都、鉄道事業者と協議を進めてまいりたいと考えております。

◆市の情報発信について

(萩山町 Nさん)

市のことがわかりづらい。困ったことがあった時にどこに聞けば良いのかということもそうだが、緑や財政について住んでいる人も知らないと思う。その辺をどうすれば知ることができるのかとか、伝えることができるのかを考えていただきたい。

◎ 市長回答 ◎

市民の皆さんといかに情報共有できるか、というのはこれからの自治体にとっては生命線だというふうに思っています。我々としてはこの間、市報やホームページを見やすくしたり、必要な情報を即時的に流せるように市でもツイッターやSNSも始めて情報提供するように努めてきています。

ただ、わかりづらいとか、ホームページも先ほど「イベント情報が一気に見られるサイトがあると良いですね」というご指摘があったのですが、実は既にあるのですけれども見つけづらいとか辿りつきにくいということがあるのかなと。様々な情報があふれている時代ですから、必要とされる方に必要な情報を届けられるように工夫を重ねていきたいと思っておりますし、市に対して意見を言うやり方として例えば「市長へのEメール」という手法もあって、ホームページから何クリックかすると辿りつくようになっていますから、「これはどこに聞けばいいんだ」というようなことを聞いてもらっても良いのかなと思っています。まずどこに聞けばいいのかわからんと言われると市としても改善しなければいけない大きな課題だなというふうに思います。

まずは役所に電話をいただいて、「こういうことを知りたいんだ」ということを電話交換手の方へ言っていただければ担当課にはつながるようになっていきますので、まずはご連絡をいただくなり、電話をかけるのは嫌だということでしたらメールでご意見なりご質問をお寄せいただければと思います。

◎ 広報広聴課より ◎

毎年行っている市民意識調査では、約85%の方々が市政情報の情報源として、市報をあげられております。そのため本年度より市報をリニューアルし、よりわかりやすくするとともに、10代から30代の方々が多くあげられていたホームページにつきましても、トップページにて重要ニュースが一目わかる等の工夫をしています。また、SNSの活用に関しては市公式ツイッターにて、緊急性の

高い情報を中心に、市ホームページ新着情報と連携したコンテンツの配信を行っております。今後、ホームページの改善やSNS、あるいは日々お使用の駅構内でのPR強化などより伝わる情報伝達の研究をまいります。

【市長まとめ】

今日は長時間に亘りまして熱心にグループワークをしていただき、また、私との意見交換もしていただき、本当にありがとうございます。

繰り返しになりますが、まちにとって何が活力になるかという、やはり若い人たちというのは大きなエネルギーの1つだと思っています。よく良いまちをつくる時に「若者・ばか者・よそ者」と言われるのですけれども、司会のKさんのようにコスチュームプレイまでやってしまうような東村山愛に溢れたばか者的な人がまちを活性化してくれたり、それから逆に全然、東村山と縁もゆかりもないよその人が東村山市を活性化してくれることもあります。ただ、やっぱり主役は東村山を愛している若い人たちが自分たちの住んでいるまちのために一肌脱いでがんばってみようかな、と思っていただくのが良いまちをつくっていく大きなエネルギーになると思いますので、今日をきっかけにもう一度自分の住んでいる東村山、また、住んでもいないし通ってもいないけどなんか縁があって参加しちゃったと言う人もぜひ東村山のファンになっていただいて、「こういうことをちょっと工夫しただけでもっと面白いまちができるんじゃない」「もっと住みやすいまちができるんじゃない」ということをお寄せいただければと思います。

東村山は各13町ごとで運動会をやって、10月12日には恩多町の運動公園で50周年の市民大運動会をやります。運動会を通じて子どもからお年寄りまで一緒に汗をかいて世代間で交流するというようなこともずっとやっています、そういうことも大事にしながら進めたいと思うので、ぜひ飛び入りでも結構ですからそういう市のいろいろな行事に参加いただくとありがたいかなと思います。

東村山市もいくつか課題があるのも事実ですけれども、50周年を契機に先人の皆さんや多くの方に培ってきていただいた良いものもたくさんありますので、それを大事にしながらこれから未来ある皆さんたちと一緒に、東村山市がさらに良いまちになるようにがんばっていきたく思いますので、今後もよろしく願い申し上げて閉会の挨拶とさせていただきます。それから司会のKさん、本当にありがとうございました。

市民と市長の対話集会
第83回
タウンミーティング記録集

発行 平成26年12月
東村山市役所市民部市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
TEL 042(393)5111
内線2564・2565